

行政評価(施策評価シート)

1 基本項目

基本目標1	生涯を通じて学び育つまち
基本施策3	生涯学習の推進
施策5	生涯学習
基本方針	
だれもが生涯を通じて、心身ともに健康で充実した心豊かな生活を送ることができるよう、あらゆる機会に、あらゆる場所において、個人の要望と社会の要請に対応した学習活動と、その成果を適切に活かすことのできる環境を整備します。	

2 指標(長期総合計画目標指標)

指標名		現状		H24実績	H25実績	H26実績	H27実績	H28実績	目標値 (平成28年度)
指標1	生涯学習センターゆとろぎの利用率	49.40%	(平成22年度)	44.49%	42.87%	44.21%	44.68%	42.80%	55.00%
指標2	図書館の貸出件数	402,810件	(平成22年度)	385,356件	349,393件	346,270件	339,730件	327,918件	445,075件
指標3	郷土博物館への入館者数	34,098人	(平成22年度)	37,481人	32,277人	32,746人	31,814人	30,531人	38,000人
指標4	スポーツ人口(週1回実施)の割合	40.00%	(平成21年度)	-	-	-	50.80%	-	50.00%
指標5	社会教育関係団体のうち社会貢献活動を行う団体の割合	-		-	-	2割	-	-	8割以上

3 施策を構成する平成28年度事務事業の実施・評価結果

No	事業名	平成28年度実施結果			評価(所管課長)				指標に係る重点事務事業
		決算/円	予算執行率	進捗状況	妥当性(必要性)	効率性(手法)	有効性(成果)	方向性	
1	生涯学習基本計画の推進	2,997,870	77.3%	計画どおり完了	○	○	○	A	
2	2020年東京オリンピック・パラリンピックに関する事業の推進	10,040,959	99.7%	計画どおり完了	○	○	○	A	
3	青少年スポーツ・文化活動等への支援	31,836	3.2%	計画どおり完了	○	○	○	A	
4	生涯学習センターゆとろぎ市民協働事業の推進	10,314,607	99.3%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
5	伝統文化交流事業inゆとろぎの実施	5,477,996	91.3%	計画どおり完了	○	○	○	A	
6	子ども読書活動の推進	426,434	77.1%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
7	登録郷土研究員の育成	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	
8	スポーツを通じた健康づくりの推進	61,880	99.8%	計画どおり完了	○	○	○	A	*
9	大学との連携による講座の充実	232,500	64.6%	計画どおり完了	○	○	○	A	

10	生涯学習関連施設における運営状況に関する評価の実施								
①	生涯学習センターゆとろぎ	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	
②	図書館	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	
③	スポーツ推進課	-	-	計画どおり完了	○	○	○	A	
④	郷土博物館	-	-	計画どおり完了	△	○	○	B	
11	多摩・島しょ広域連携活動助成事業(子ども体験塾)・スポーツ習慣定着促進事業								
①	羽村×八丈エコ教室〔環境保全課〕	617,400	99.9%	計画どおり完了	○	○	○	A	
②	大島・子ども体験塾(児童青少年課)	175,000	100.0%	計画どおり完了	○	○	○	A	
③	世界のはてを見てみよう「南極・北極体験」等(ゆとろぎ)	1,240,059	99.2%	計画どおり完了	○	○	○	A	
④	子ども発掘体験	153,468	91.4%	計画どおり完了	○	○	○	A	
⑤	平和啓発施設見学会(企画政策課)	445,000	100.0%	計画どおり完了	○	○	○	A	
⑥	小・中学生「走り方教室」「フィジカルトレーニング教室」等(スポーツ推進課)	1,117,286	55.9%	計画を見直し完了	○	○	○	A	
12	ヤングアダルト(YA)コーナーの環境整備と充実	625,657	82.3%	計画どおり完了	○	○	○	A	
13	阿蘇神社避雷針交換工事	810,000	100.0%	計画どおり完了	○	○	○	A	

施策評価

①施策の評価

生涯学習基本計画の前期基本計画の計画期間が終了することから、社会構造の変化に伴い多様化・高度化した市民の学習ニーズを踏まえて、引き続き市民一人ひとりが自主的・自発的に学べる環境を整えるとともに、学んだ成果を地域課題の解決や社会貢献といった主体的な行動として活かしていくことを目的とし、生涯学習に関する施策を総合的、計画的に推進するための生涯学習基本計画後期基本計画を策定した。

青少年スポーツ・文化活動等への支援にあつては、全国大会に出場し、補助金制度の基準を満たした青少年の保護者に対し、その経費の一部を補助することで、スポーツ・文化活動の振興を図った。

また、「多摩・島しょ広域連携活動助成事業」を活用し、イベントを開催して、青少年の健全育成のための体験学習の創出や交流、子どもたちがさまざまな体験の中から「学び」を体験できるような機会を提供し、参加者の要望に応じた学習活動の実施に努めた。

各生涯学習関連施設では、外部の視点を入れた運営状況に関する評価によりサービスの向上が図られるとともに、市民の楽しみや生きがいにつながる自主的な学習・文化活動を支援するための各種講座を実施し、効果的な学習活動の活性化を図った。その中で近隣大学との連携により専門性の高い講座も実施して内容の充実に取り組んだ。

また、市民との協働によるゆとりぎ事業の実施や登録郷土研究員による講座・観察会の実施など、学習や活動の成果を地域に還元する循環型生涯学習を推進した。3年ごとの社会教育関係団体の登録更新時に行っているアンケート調査では、社会貢献活動を行っている団体は全体の2割にとどまっているが、それぞれの団体が様々な場や活動を通して地域社会などに還元され、地域教育力の向上に寄与している。

図書館の貸出件数は、電子図書館の普及や活字離れなど社会の変化を反映して年々減少しているが、子どもの読書活動として子どものころからの本の読み聞かせの実施や読書手帳の配布や表彰など、読書活動の推進に努めるとともに、ヤングアダルトコーナーでポップを使った展示や謎解きイベントなどを実施し、コーナーと図書館の充実を図った。

郷土博物館では、登録郷土研究員による成果発表の場として、歴史講座・自然観察会の講師として活動を行った。また、郷土博物館紀要第31号に郷土羽村の新しい知見等の論稿を寄せ、発行することができた。なお、入館者数の目標値を平成28年度 38,000人としていたが、人口の減少や施設利用者の高齢化傾向などにより、3万人台前半で推移している。

スポーツセンターでは、健康スポーツフォーラムやスポーツ習慣定着促進事業などの実施により、羽村市スポーツ推進計画に基づくスポーツ実施率の向上に努めてきた。市民アンケートなど毎年度実施していないので、進捗状況については把握できないものの、週1回以上のスポーツの実施に役立つことができた。

生涯学習センターゆとりぎでは、生涯学習の拠点施設として、市民や大学等関係機関と協働し、社会の要請、市民ニーズに即した各種事業を幅広く展開し、市民の学習機会の支援を行うとともに、学習の場の提供を図ったが、ゆとりぎの利用率は40%前半で横ばいの状況であった。

大島・子ども体験塾については、あきる野市と共同で、学校・地域等での青少年活動リーダーとして活躍する意欲のある小学5・6年生と中学生を対象に、大島町での様々な体験事業を通じて、豊かな人間性と社会性を身に付けるための支援を行った。

子ども発掘体験では、約1700年前の古墳時代の竪穴住居跡を発掘し420点の出土遺物を発見した。青梅市との共同事業であることから、異年齢の子どもたちの仲間づくりが醸成された。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに関する事業では、庁内での検討組織となる『東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会庁内検討委員会』を設置し、全庁的な取り組みができる体制が整った。また、『羽村市における東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関する取組基本方針』を策定し、市としての方向性が決まり、気運醸成事業、事前キャンプ等誘致事業・外国人観光客等誘致事業等の取り組みを開始することができた。

②今後の方向性(改善への取組み等)

生涯学習基本計画後期基本計画に基づき、さまざまな学習機会を提供し各ライフステージに沿った生涯学習の推進を図るとともに、学習や活動の成果を自主的・自発的に地域に還元できるよう支援し循環型の生涯学習を推進する。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、スポーツに関する市民の関心を高めていく。

具体的には、生涯学習基本計画については、推進委員会にて実施計画事業の進行管理及び点検・評価を行うとともに、推進懇談会では生涯学習の推進について積極的に意見交換できる貴重な場としての機能を存分に発揮できるよう努めていく。

青少年スポーツ・文化活動等への支援については、全国大会に出場し、補助金制度の基準を満たした青少年の保護者に対し、その経費の一部を補助し、スポーツ・文化活動の振興を図っていく。

図書館では、子どもや青年層の読書環境の整備に努め、読書への関心を高めるとともに、各コーナーの充実を図る。また、図書館協議会からの意見、指摘を参考に図書館運営の改善に努めていく。

郷土博物館では、将来にわたる人材確保のため、羽村市域を中心とする地域の研究者との連携や人材の養成を推進していく。

スポーツセンターでは、スポーツを楽しむことや健康づくりに必須であることを認識してもらうため、その取り組みきっかけづくりを継続して提供していく。また、就労している現役世代のスポーツ実施率が低いという課題もあるなかで、時間がない方も何かできないか検討していく。

生涯学習センターゆとりぎでは、生涯学習の推進と文化の発展・振興のため、非営利活動団体や大学、社会教育関係団体等と協働し各種事業の充実を図る。また、施設の利用団体や部屋毎の利用状況について検証するとともに、ゆとりぎで開催する事業を広域に発信することにより、ゆとりぎの知名度を向上し利用率の増加を図る。

児童青少年課では事業に参加した子ども達が、将来的に学校・地域等での青少年リーダーとして活動してもらえるように努める。

2020年東京オリンピック・パラリンピックに関する事業では、さらなる全庁的な取組みにより事業の一層の推進を図るとともに、気運醸成事業においても効果的に実施していく。さらに直前キャンプ等誘致事業・外国人観光客等誘致事業にも積極的に取り組み、広域連携も視野に入れながら展開していくこととする。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	生涯学習部		生涯学習総務課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
1 生涯学習基本計画の推進		平成 24 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○
01		年				
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	12

2.事業の概要

事業内容	生涯学習基本計画の施策・事業を点検・評価する体制を整備し、総合的な生涯学習の推進を図ります。
根拠法令	
条例	羽村市生涯学習基本条例
要綱等	羽村市生涯学習審議会規則、羽村市生涯学習推進委員会要綱、羽村市生涯学習基本計画推進懇談会要綱

3.成果指標

成果目標	生涯学習社会の実現
------	-----------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	推進懇談会 4回	同左 4回	同左 4回	同左 4回
	庁内推進委員会 2回	同左 10回	同左 1回	同左 1回
	実施計画の見直し	同左	同左	同左
	後期基本計画の策定準備	後期基本計画の策定		
	審議会、各部会等の開催計4回	同左 計22回		

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	480 H	1人	1,688 H	1人	360 H	1人	360 H
主事・主任職	1人	480 H	1人	1,313 H	1人	360 H	1人	360 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	456	3,366	202	202
人件費(係長職)	2,419	8,398	1,791	1,791
人件費(主任・主事職)	1,728	4,463	1,224	1,224
総事業費(合計)	4,603	16,227	3,217	3,217
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	4,603	16,227	3,217	3,217
財源内訳(合計)	4,603	16,227	3,217	3,217

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

生涯学習基本計画推進懇談会	7/13、8/9、9/5、10/4、計4回開催
生涯学習推進委員会作業部会	6/15、7/7、7/28、9/2、計4回開催
生涯学習推進委員会	4/18、5/11、6/20、7/14、8/9、9/16、10/13、11/17、計8回開催
生涯学習審議会	4/25、5/23、6/27、7/25、8/29、9/26、10/24、11/29、計8回開催
答申	12/19

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	3,366,000	510,000	3,876,000	2,997,870	77.3%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
生涯学習基本計画実施計画に掲げる施策・事業の進捗状況を確認することで、これまでの取組みについて把握するとともに、更なる推進・改善に向けた見直しを行うことができた。 また、推進懇談会を開催し、生涯学習の推進に向けた市民からの意見を聞き、集約することができた。その意見集約結果については、推進委員会で報告し、生涯学習の現状・課題に関する委員の共通認識を図るとともに、後期基本計画策定に向けた市民意見として活用していくこととした。	市民で構成する生涯学習審議会において、市長からの諮問に基づき計8回の審議を行った。 また、委員長を教育長、副委員長を副市長とし、部長職で構成する生涯学習推進委員会を計8回、その下部組織として関係各課長で構成する作業部会を計4回開催した。 生涯学習審議会から12月19日に答申を受け、市の計画案としてパブリックコメントを経た後、3月に後期基本計画を策定した。その後、計画書、概要版、実施計画を作成し、関係各所へ配布するとともに市公式サイトや広報紙等の媒体を活用し、広く周知に努めた。 前期基本計画については、実施計画に掲げる事業について各課の進行管理を行うとともに、推進、改善に向けた見直しを図った。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高 [効率性]	
低	低	
↓		
←	→	
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	
←	→	
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

生涯学習基本計画の基本理念である「楽しく学びつながり活かす生涯学習」の実現に向け、生涯学習の一層の推進に努めていく。前期基本計画が終了したことから5年間における取組結果を明らかにするとともに、後期基本計画で掲げた事業の進行管理にも取り組むこととする。

また、生涯学習に造詣のある者や市民公募委員等で構成する生涯学習推進懇談会においても、これからの生涯学習の推進について積極的に意見交換できる貴重な場としての機能を存分に果たせるよう努めていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目

事業名		作成部署	企画総務部 東京オリンピック・パラリンピック準備室			
2	2020年東京オリンピック・パラリンピックに関する事業の推進	開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
	01	平成 25 年	その他	自治事務(市独自)	業務委託(一部)	
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課	企画政策課・スポーツ推進課・障害福祉課・産業振興課・学校教育課・生涯学習センターゆとろぎ					
基本目標	1 生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	行政運営	事業番号	17

2.事業の概要

事業内容	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、市民スポーツ実施率の向上、地域経済の活性化、多文化共生への理解促進等を図り、次世代へそのレガシーを継承するため、海外選手団の事前キャンプ地、応援団等の滞在地、観光地及び訪問地として選ばれるための事業を推進します。
根拠法令	
条例	
要綱等	羽村市における東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関する取組基本方針

3.成果指標

成果目標	2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた気運醸成、海外へ向けた羽村市のPR、国際交流の推進、多文化共生への理解促進
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	気運醸成事業 2回	同左 2回	同左 2回	同左 2回
	検討委員会 1回	同左 4回	同左 4回	同左 4回
	基本方針の策定			
	事前キャンプ誘致に向けた各施設の調査			
	事前キャンプ等誘致事業	同左		同左
	外国人観光客等誘致事業	同左		同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	1人	1,883H	1人	1,883H	1人	1,883H
主事・主任職	1人	30H	0人	0H	0人	0H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	350	10,000	10,000	10,000
人件費(係長職)	0	9,368	9,368	9,368
人件費(主任・主事職)	108	0	0	0
総事業費(合計)	458	19,368	19,368	19,368
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	175	5,000	5,000	5,000
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	283	14,368	14,368	14,368
財源内訳(合計)	458	19,368	19,368	19,368

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	344	円
イ 対象者		人における1人あたりのコストは、		円
ウ 成果物		の 出来高		円
※ 対象者:				円

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

庁内での検討組織となる『東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会庁内検討委員会』を設置した。(設置後、2回開催をした。)そして、『第1回同検討委員会』での検討を経て、『羽村市における東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関する取組基本方針』を策定した。
 この方針に基づき、気運醸成事業として、市主催イベント(障害者スポーツ・レクリエーションのつどい等)における同時開催事業と都との連携事業(フラッグツアー等)を実施した。また、事前キャンプ等誘致事業・外国人観光客等誘致事業として、東アジア(台湾等)を中心とした多岐に渡るPR活動を実施した。さらに、西多摩地域における広域連携事業(ホストタウン登録)を検討した。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	10,000,000	70,000	10,070,000	10,040,959	99.7%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
2020年東京オリンピック・パラリンピックに関する事業については、具体的な実施体制が未整備で、本格的な取り組みを開始するには至らなかった。	庁内での検討組織となる『東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会庁内検討委員会』を設置し、全庁的な取り組みができる体制が整った。また、『羽村市における東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関する取組基本方針』を策定し、市としての方向性が決まり、気運醸成事業、事前キャンプ等誘致事業・外国人観光客等誘致事業等の取り組みを開始した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性												
<table border="1"> <tr> <td>低</td> <td>B:事業の進め方の改善の検討</td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> <td>高</td> </tr> <tr> <td></td> <td>C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	低	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	高		C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討				D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討					A
低	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	高												
	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討														
	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討														
	↑	↓													
	低	低													

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
全庁的な取り組みができる体制が整い、『羽村市における東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に関する取組基本方針』を策定し、市としての方向性が決まり、各種の取り組みが開始できた。今後は、より具体的な、そしてさらなる全庁的な取り組みにより、2020年東京オリンピック・パラリンピックに関する事業の一層の推進を図ることとする。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	生涯学習部		生涯学習総務課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
3 青少年スポーツ・文化活動等への支援		平成 25 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
01		年				
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	14

2.事業の概要

事業内容	スポーツ・文化活動等の全国大会等に出場する青少年の活動を支援します。
根拠法令	
条例	
要綱等	羽村市青少年スポーツ・文化・芸術活動等の振興

3.成果指標

成果目標	青少年のスポーツ・文化・芸術活動等の振興
------	----------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	大会出場に係る交通費及び宿泊費補助	同左	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	1人	60H	1人	60H	1人	60H	1人	60H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	1,000	1,000	1,000	1,000
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	216	204	204	204
総事業費(合計)	1,216	1,204	1,204	1,204
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	1,216	1,204	1,204	1,204
財源内訳(合計)	1,216	1,204	1,204	1,204

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

今年度も前年度に引き続き、市公式サイトや広報はむらで制度の周知を図った。多くの青少年が全国大会へ出場する中、今年度は補助金制度の基準を満たした3人の青少年の保護者に対し、羽村市青少年スポーツ・文化活動等補助金交付要綱に基づき、その経費の一部を補助した。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	1,000,000	0	1,000,000	31,836	3.2%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
全国大会へ出場し、補助金制度の基準を満たした青少年の保護者に対し、交通費及び宿泊費の一部を補助することで、青少年スポーツ・文化活動等の振興につなげた。	補助金制度の基準を満たした3人の青少年が全国大会へ出場し、青少年スポーツ・文化等の振興に寄与するとともに保護者の経済的負担を軽減することができた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高 [効率性]	
低	高	
↓	低	

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討

D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
今後も全国大会等へ出場し、補助金制度の基準を満たした青少年の保護者に対し、その経費の一部を補助することで市民のスポーツ・文化活動の振興を図る。広報紙や市公式サイトなど幅広く制度の周知に努めていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	生涯学習部		生涯学習センターゆとろぎ	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
4	生涯学習センターゆとろぎ市民協働事業の推進	平成 18 年	継続	自治事務(市独自)	施行者への補助・助成	
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課	生涯学習総務課・図書館					
基本目標	1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号 1

2.事業の概要

事業内容	市民組織と協働して、市民ニーズに沿った生涯学習センターゆとろぎの事業を展開します。また、市民協働事業がさらに発展する運営手法について検討します。
根拠法令	
条例	
要綱等	羽村市生涯学習センターゆとろぎ協働事業運営市民の会助成金交付要領

3.成果指標

成果目標	市民ボランティアの企画・運営により、芸術鑑賞、展示、学習文化、情報発信の各種事業を提供するとともに、有償ボランティアからなる「レセプション」「保育」「植栽管理」「ホール操作」のサポートグループと協働して、ゆとろぎの利便の向上及び利用促進を図る。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	市民協働事業の実施 芸術鑑賞 8公演 展示 5事業 市民講座 21事業 協働事業HPの更新等	同左 芸術鑑賞 7公演 展示 5事業 市民講座 18事業 協働事業HPの更新等	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	471H	1人	471H	1人	471H	1人	471H
主事・主任職	5人	2,335H	5人	2,335H	5人	2,335H	5人	2,335H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	10,386	10,386	10,386	10,386
人件費(係長職)	2,374	2,344	2,344	2,344
人件費(主任・主事職)	42,007	39,684	39,684	39,684
総事業費(合計)	54,767	52,414	52,414	52,414
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	54,767	52,414	52,414	52,414
財源内訳(合計)	54,767	52,414	52,414	52,414

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	931	円
イ 対象者	280,000	人における1人あたりのコストは、	187	円
ウ 成果物	入館者	の出来高	280,000	における1
				のコストは
				187

※ 対象者: 入館者

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

ゆとりぎ協働事業運営市民の会と協働で、芸術鑑賞事業7事業、展示事業5事業、市民講座14事業を実施し、ゆとりぎイベントガイドWEB版を更新した。市民講座について、18事業を予定していたが、事業内容の精査及び全体の事業調整のため事業数を絞り実施した。また、サポートグループ「レセプションの会」「保育さくらんぼ」「ホール操作」「植栽管理」による施設利用者へのサービス提供を行った。事業については、子どもから高齢者、子育て世代など様々な年齢・世代に合わせた事業を幅広く実施し、市民ニーズや社会の要請に応じた事業が実施できた。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	10,386,000	0	10,386,000	10,314,607	99.3%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
例年の事業展開に加えて、羽村市生涯学習センターゆとりぎ開館10周年の機会を捉えて、公演委託事業を増額し、例年実施できない質の高い事業を行った。 ・アニメソングライブ(音楽) ・宝島(影絵劇) ・バードカービング展(展示) ・ゆかいな森のゆかいな動物展(展示)など	生涯学習センターゆとりぎと同じく、ゆとりぎ協働事業運営市民の会との協働事業にとっても新たな10年に取り組む重要な年度であり、これまで以上にゆとりぎの役割を再認識し、事業に取り組むことができた。事業選定から周知方法など協議を重ねて実施したことで複数の事業で満員・満席となり、市民の期待に応えることができた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
市民協働事業	芸術鑑賞7公演、展示5事業、市民講座18事業、HPの更新	⇒ 芸術鑑賞7公演、展示5事業、市民講座14事業、HPの更新

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	今後の方向性
低	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	
			低

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長) 学習活動や芸術鑑賞など、地域の人材が知識・技能・経験を活かして市民ニーズに応じた事業の展開に努めるとともに、施設の運営においては利便性の向上を図ることを目指して、協働事業を一層進める必要がある。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目

事業名	作成部署	生涯学習部		生涯学習センターゆとろぎ	
	開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
5 伝統文化交流事業inゆとろぎの実施	平成 24 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
01	年				
02	年				
03	年				
04	年				
05	年				
関連課					
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号 13

2.事業の概要

事業内容	市内外の郷土芸能や日本を代表する伝統文化に身近に触れ、地域文化が伝承・発展することの大切さを学ぶ機会としていくため、各種事業を実施します。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	郷土はむらを再発見するとともに地域のきずなや文化伝承の大切さを学び、羽村の文化の伝承及び発展の契機とする。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	伝統文化関連事業の実施 伝統文化公演 郷土の伝統文化公演 伝統工芸展 邦楽コンサート 子どもの遊び体験等	同左 同左 同左 同左 同左	同左 同左 同左 同左 同左	同左 同左 同左 同左 同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	90 H	1人	90 H	1人	90 H	1人	90 H
主事・主任職	3人	270 H	3人	270 H	3人	270 H	3人	270 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	6,400	6,000	6,000	6,000
人件費(係長職)	454	448	448	448
人件費(主任・主事職)	2,915	2,754	2,754	2,754
総事業費(合計)	9,769	9,202	9,202	9,202
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	917	700	1,500	1,500
その他特定財源	583	700	300	300
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	8,269	7,802	7,402	7,402
財源内訳(合計)	9,769	9,202	9,202	9,202

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	164	円		
イ 対象者	56,281	人における1人あたりのコストは、	164	円		
ウ 成果物	来場者数	の 出来高	4000	における1 のコストは	2,301	円

※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

伝統文化交流事業inゆとりろぎにおいて、日本を代表する伝統芸能である「越中八尾おわら風の盆」や島根県の「石見神楽」の公演団体を招へいし、伝統文化公演を実施した。また、西多摩の日の出町や檜原村の郷土芸能を紹介する公演を実施した。

【実施事業】

「越中八尾おわら風の盆と西多摩の郷土芸能」(H28.6.24)、「小沢式三番・湯久保の獅子舞」(H29.1.7)、「ゆとりろぎ邦楽コンサート」(H29.1.8)、「ゆとりろぎでお正月を遊ぼう！」(H29.1.8)、「石見神楽公演」(H29.1.15)、「石見神楽展」(H29.1.7～15)

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	6,000,000	0	6,000,000	5,477,996	91.3%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
おわら風の盆、能と雅楽の公演のほか、西多摩の伝統の紹介を行った。これらの公演を通して伝統文化の魅力を感じてもらい、伝統文化の伝承、発展の契機とすることができた。	日本を代表する質の高い伝統文化公演を通して交流の機会を提供することができた。また、西多摩の郷土芸能を紹介することで地元地域の魅力を再発見する機会とした。その他、邦楽コンサートやお正月を感じる事業の実施により、幅広い世代に日本の文化に触れる機会を提供した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性
低	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	高	A
			低	

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
ホール公演で質の高い伝統文化を発信することはシティプロモーション、東京2020機運醸成、羽村の文化活動を推進する上での効果は大きい。このことから、より充実させて事業を展開させていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	生涯学習部			図書館
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
6	子どもの読書活動の推進	不明	年継続	自治事務(市独自)	直営	
01	第二次子ども読書活動推進計画の運用		年			
02	第三次子ども読書活動推進計画の策定	平成 28 年	今年度限り	自治事務(市独自)	直営	○
03	子育て支援図書コーナーの運用と図書の充実、他		年			
04			年			
05			年			
関連課		子育て支援課・健康課				
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	2

2.事業の概要

事業内容	子どもたちが自主的に読書活動ができるよう、読書環境の整備を推進します。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	親子で読書を楽しむ環境を整え、子どもの自主的、自発的な読書習慣を培います。
------	---------------------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	第二次子ども読書活動推進計画の運用	同左		
	第三次子ども読書活動推進計画の策定		第三次子ども読書活動推進計画の運用	同左
	子育て支援図書コーナーの運用と図書の充実	同左	同左	同左
	乳幼児健診時における赤ちゃん絵本の紹介(ブックスタート) 12回	同左 12回	同左 12回	同左 12回
	小学校1年生及び中学校1年生に読書手帳を配布 1,111冊	同左 1,142冊	同左 1,150冊	同左 1,150冊

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	15 H	1人	123 H	1人	15 H	1人	15 H
主事・主任職	1人	102 H	1人	102 H	1人	102 H	1人	102 H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	428	600	550	550
人件費(係長職)	76	612	75	75
人件費(主任・主事職)	367	347	347	347
総事業費(合計)	871	1,559	972	972
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	871	1,559	972	972
財源内訳(合計)	871	1,559	972	972

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

第二次羽村市子ども読書活動推進計画に基づき、小学校1年生と中学校一年生に読書手帳を配布するなど、子どもの読書環境の整備と、読書機会の提供に努めた。ブックスタート事業や本の読み聞かせなど、乳幼児期から本に親しめるよう事業を展開しており、保護者の意識の向上も併せて、おおむね効果的に事業を実施できた。

第二次羽村市子ども読書活動推進計画が終了となるため、第三次羽村市子ども読書活動推進計画を策定した。また、例年実施している講演会とは別に市内在住の児童文学者3名を講師に児童文学講演会を実施し、385名の来場があった。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	600,000	0	600,000	462,434	77.1%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
子育て支援コーナーの蔵書点数は4,374冊、児童書の点数は106,967冊である。読書手帳表彰を行い、小学生1名が表彰された。	子育て支援コーナーの蔵書点数は4,482冊となり、子育て世代の利用に供することができた。児童書の点数は108,388冊であり、前年と比較して1,421冊の増となった。また、読書手帳表彰を行い、小学生3名が表彰された。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	今後の方向性						
低	<table border="1"> <tr> <td>B:事業の進め方の改善の検討</td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		高 [効率性]	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当								
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討									
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討									
		低							

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
今後、第三次羽村市子ども読書活動推進計画に沿って施策を展開していくこととなるが、社会の変化や読書の環境などに適合しながら、子どもの自主的、自発的な読書活動につながるための取組みを進めていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	生涯学習部		郷土博物館	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
7 登録郷土研究員の育成		平成 23 年	その他	自治事務(市独自)	直営	
01		年				
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	4

2.事業の概要

事業内容	市民との協働による郷土研究を進めるため、登録郷土研究員を育成します。
根拠法令	
条例	
要綱等	羽村市郷土博物館登録郷土研究員要綱

3.成果指標

成果目標	<ul style="list-style-type: none"> 登録郷土研究員の登録数の増加を図る。 市民との協働による郷土研究を推進する。 郷土博物館紀要への論文掲載を促進する。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	郷土研究員の確保及び育成	同左	同左	同左
	郷土研究員による成果発表	同左	同左	同左
	郷土博物館紀要の編さん	同左	同左	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	1H	1人	1H	1人	1H	1人	1H
主事・主任職	1人	2H	1人	2H	1人	2H	1人	2H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	60	60	60	60
人件費(係長職)	6	5	5	5
人件費(主任・主事職)	8	7	7	7
総事業費(合計)	74	72	72	72
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	74	72	72	72
財源内訳(合計)	74	72	72	72

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 人 における1人 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

郷土研究員による成果発表として、歴史講座を2回実施した。また、自然観察会を1回実施した。刊行物(郷土博物館紀要)の編さんとして、平成29年3月30日発行の紀要第31号に郷土研究員3人の論考を掲載した。
 講座や観察会の実施、紀要への論考を郷土研究員に依頼できたことから、謝礼等無償となった。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	60,000	0	60,000	-	-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
前年度同様、講座・観察会の講師として活動、また、郷土博物館紀要第30号に論稿をお寄せいただいたので、紀要を発行した。	前年度同様、講座・観察会の講師として活動、また、郷土博物館紀要第31号に論稿をお寄せいただいたので、紀要を発行した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
・郷土研究員による自然観察会・歴史講座・紀要論稿	5人	6人

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	今後の方向性				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">← C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> <td style="text-align: center;">→ D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	← C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	→ D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	高 [効率性]	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当					
← C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	→ D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討					
	低					

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
将来にわたる人材確保・育成の中核となる人材の確保のため、羽村市域を中心とする地域の研究者との連携や人材の養成は郷土研究の推進には欠かせないため、登録郷土研究員制度は不可欠の事業である。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	生涯学習部		スポーツ推進課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
8	スポーツを通じた健康づくりの推進	年				
01	健康・スポーツフォーラム	平成 25 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課		健康課				
基本目標	1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号
						5

2.事業の概要

事業内容	スポーツと保健事業が連携した健康づくりフォーラムなどのイベントや教室・講座等を開催し、健康づくりを推進します。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	市民が週1回スポーツを実施する率を50%に向上させる。
------	-----------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	健康づくり教室 1回20人	同左 1回20人	同左 1回20人	同左 1回20人
	健康・スポーツフォーラム 1回150人	同左 1回150人	同左 1回150人	同左 1回150人

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	1人	5H	1人	5H	1人	5H	1人	5H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	62	62	62	62
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	18	17	17	17
総事業費(合計)	80	79	79	79
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	10	10	10	10
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	70	69	69	69
財源内訳(合計)	80	79	79	79

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者: 市民

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

スポーツと保健事業とが連携した健康スポーツフォーラムやダイエット教室を開催した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	62,000		62,000	61,880	99.8%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
健康スポーツフォーラムは、運動に関する基調講演と地域医療、はむすぼ、食生活のはむらを元気にする健康づくりシンポジウムを行った。参加者に対して、健康づくりの意識を高めることができた。	「スポーツや運動による病気の予防と元気なからだづくり」と「スポーツ貧血の予防」の2つの講演を行うとともに、ヘモグロビン値の測定を行い、参加者に対して、健康づくりの意識を高めることができた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	今後の方向性				
<table border="1"> <tr> <td>低</td> <td> B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討 </td> <td> A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当 </td> <td>高 [効率性]</td> </tr> </table>	低	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	高 [効率性]		A
低	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	高 [効率性]			
	↑					
	↓					
	低					

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
羽村市スポーツ推進計画の基本理念である「スポーツを通じた健康づくりまちづくり」を実践していくため、スポーツを継続的に実施していくことが、市民の健康の保持・増進、体力の向上につながり、市民相互のふれあいと親睦、豊かなまちづくりにもつながる。今後も健康課と連携をしてスポーツ実施率の向上に向けて取り組んでいく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目

事業名		作成部署	生涯学習部		生涯学習センターゆとろぎ	
9 大学との連携による講座の充実		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
		平成 21 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
01		年				
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	7

2.事業の概要

事業内容	近隣の大学と連携・協力し、「市民大学講座」として専門性の高い学習機会を提供します。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	大学レベルの専門性の高い講座を市民に提供する。
------	-------------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	大学と連携した講座 1期4回講座を3期	同左 1期4回講座を3期	同左 1期4回講座を3期	同左 1期4回講座を3期

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	2人	100H	2人	100H	2人	100H	2人	100H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	360	360	360	360
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	720	680	680	680
総事業費(合計)	1,080	1,040	1,040	1,040
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	240	180	180	180
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	840	860	860	860
財源内訳(合計)	1,080	1,040	1,040	1,040

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の 出来高 における1 のコストは 円

※ 対象者：一般(高校生以上)

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

首都大学東京と連携し、専門性の高い講座を3講座実施した。

- ①ミステリーで都市を読む
- ②仕事とモチベーション
- ③日本の食文化と食品機能性のすばらしさ

例年実施している杏林大学との連携について、平成28年度は杏林大学生企画の2講座を市民協働事業として実施した。

なお、“より参加しやすいカリキュラムを”との市民要望から、1期2回(当初予定1期4回)で実施したため、事業費が削減された結果となった。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	360,000	0	360,000	232,500	64.6%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
継続事業として、2大学と連携して、専門性が高く、市民に感心の高い内容の講座を提供できた。	首都大学東京との連携により市民大学講座を実施し、市民に大学の知的資源を活用した専門性の高い講座を提供できた。また、杏林大学生企画の事業を協働で実施し、新たな事業展開に繋げることができた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
大学と連携した講座	市民大学講座3講座	首都大学東京3講座 杏林大学2講座

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

8.評価

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性					
低	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>B:事業の進め方の改善の検討</td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		高	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当								
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討									
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討									
		低							

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
市民には、生涯学習活動のきっかけとなる初心者向けの講座と併せて、専門性が高い講座を望む声がある。今後についても杏林大学・首都大学東京と連携する中で、大学の知的資源を活用した専門性の高い講座・講演会の充実を図っていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目

事業名		作成部署	生涯学習部		生涯学習センターゆとろぎ	
生涯学習関連施設における運営状況に関する評価の実施		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
10-①		平成 26 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
01	ゆとろぎ外部評価	年				
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課 図書館・スポーツ推進課・郷土博物館						
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	9-1

2.事業の概要

事業内容	外部の視点で運営状況に関する評価を行い、より効率的な運営を目指します。
根拠法令	社会教育法第32条(公民館の運営の状況に関する評価等)
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	評価結果をもとに効率的な運営を行う。
------	--------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	評価の実施(図書館) 評価方法の検討及び評価者の選定(生涯学習センターゆとろぎ、スポーツセンター、郷土博物館)	同左(図書館) 評価の試行(スポーツセンター) 同左(生涯学習センターゆとろぎ(郷土博物館))	同左(図書館・スポーツセンター) 評価の試行(生涯学習センターゆとろぎ、郷土博物館)	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	20 H	1人	20 H	1人	20 H	0人	20 H
主事・主任職	1人	40 H	1人	40 H	1人	40 H	0人	40 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	0	0	0
人件費(係長職)	101	100	100	0
人件費(主任・主事職)	144	136	136	0
総事業費(合計)	245	236	236	0
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	245	236	236	0
財源内訳(合計)	245	236	236	0

③コスト計算

ア 市民 56,281 人における1人あたりのコストは、 4 円
 イ 対象者 280000 人における1人あたりのコストは、 1 円
 ウ 成果物 来館者 の 出来高 280000 における1 のコストは 1 円

※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

評価の基礎となるアンケート調査を継続して実施した。

- ①窓口アンケート
- ②ホール利用者アンケート
- ③施設利用者アンケート
- ④講座、講座、展示事業参加者アンケート

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0	0	0	0	-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
講座、公演、展示アンケートに加えて、①窓口アンケート②ホール利用者アンケート③施設利用者アンケートの3種類のアンケートを新たに実施した。	前年度から実施している各種アンケートを平成28年度も継続実施し、集計結果を基にゆとろぎの運営の見直しについて検討を行った。また、施設利用者アンケートについて特定時期だけでなく、常設でのアンケート実施について検討を行った。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

- ◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの
- ・・・適切なもの
- △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]	↑	A
低	↓	
←	→	
低	高 [効率性]	

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)

施設の維持管理、施設利用者へのサービス向上、学習講座・芸術鑑賞事業など、利用者の声を受け止め、改善に繋げることで、安全・効率的・魅力的な施設づくりに繋げることができる。今後もアンケート等で利用者の声を聴いて改善に繋げていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	生涯学習部			図書館
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
10-2	生涯学習関連施設における運営状況に関する評価の実施	平成 22 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
	01 図書館外部評価	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課	生涯学習センターゆとろぎ・スポーツ推進課・郷土博物館					
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	9-2

2.事業の概要

事業内容	外部の視点から運営状況に関する評価を行い、より効率的な運営を行います。
根拠法令	図書館法第7条の三
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	評価結果をもとに効率的な運営を行う。
------	--------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	評価の実施(図書館) 評価方法の検討及び評価者の選定(生涯学習センターゆとろぎ、スポーツセンター、郷土博物館)	同左(図書館) 評価の試行(スポーツセンター) 同左(生涯学習センターゆとろぎ、郷土博物館)	同左(図書館・スポーツセンター) 評価の試行(生涯学習センターゆとろぎ、郷土博物館)	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	20H	1人	20H	1人	20H	1人	20H
主事・主任職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	0	0	0
人件費(係長職)	101	100	100	100
人件費(主任・主事職)	0	0	0	0
総事業費(合計)	101	100	100	100
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	101	100	100	100
財源内訳(合計)	101	100	100	100

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

日本図書館協会が作成した「図書館評価のためのチェックリスト」により内部評価を実施し、その後、羽村市図書館協議会から評価に対する意見をいただき、3月開催の教育委員会に報告した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0	0	0	0	-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
図書館協議会から概ね良好な評価を得たが、フロアワークの実施や司書資格を持つ職員の増など課題がある。	羽村市図書館協議会からは概ね良好な評価をいただいたが、児童サービス、ヤングアダルトサービスのさらなる充実と高齢者や障害者へのサービス、多文化サービスの充実が求められた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

8.評価

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	今後の方向性	
低 ←	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当		→ 高 [効率性]
	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討			
	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討			A
		低		

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

<p>評価(所管課長)</p> <p>図書館が運営の評価を行うことは、図書館法に定められていることであり、図書館の運営改善を進める上でも必要であることから、図書館協議会からの意見、指摘については今後改善すべき内容であるととらえている。</p> <p>この評価については、「教育委員会の権限の属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価」の判断の根拠となるものである。</p>

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	生涯学習部		スポーツ推進課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
10-3	生涯学習関連施設における運営状況に関する評価の実施	年				
01	スポーツセンター外部評価	平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課		生涯学習センターゆとろぎ・図書館・郷土博物館				
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	9-3

2.事業の概要

事業内容	外部の視点から運営状況に関する評価を行い、より効率的な運営を行います。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	評価結果をもとに効率的な運営を行う。
------	--------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	評価の実施(図書館) 評価方法の検討及び評価者の選定(生涯学習センターゆとろぎ、スポーツセンター、郷土博物館)	同左(図書館) 評価の試行(スポーツセンター) 同左(生涯学習センターゆとろぎ、郷土博物館)	同左(図書館・スポーツセンター) 評価の試行(生涯学習センターゆとろぎ、郷土博物館)	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	20H	1人	20H	1人	20H	1人	20H
主事・主任職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	0	0	0
人件費(係長職)	101	100	100	100
人件費(主任・主事職)	0	0	0	0
総事業費(合計)	101	100	100	100
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	101	100	100	100
財源内訳(合計)	101	100	100	100

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	2	円
イ 対象者	56281	人における1人あたりのコストは、	2	円
ウ 成果物		の出来高		円
※ 対象者: 市民		のコストは		円

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

28年度に改選したスポーツ推進審議会において、評価事項を検討していただき、評価を実施した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0		0		-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
スポーツ推進審議会委員の改選もあることから、新委員による審議会で結論を出すこととなった。	改選後のスポーツ推進審議会において、評価事項を検討いただき、あわせて評価する委員をスポーツ推進審議会のなかで決定し、評価を実施した。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

⇒

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

8.評価

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	今後の方向性
低	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	A
	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	
		高 [効率性]	
		低	

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

<p>評価(所管課長)</p> <p>スポーツの推進に関する項目を評価していただくことで、さらに力を入れていくべき点や課題を客観的に捉えることができ、指摘事項を改善していくことで、そのプロセスを含めてより質の高いサービスにつなげることができる。</p>
--

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	生涯学習部		郷土博物館	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
10-4	生涯学習関連施設における運営状況に関する評価の実施	年	その他	自治事務	直営	
	01 郷土博物館外部評価	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課	生涯学習センターゆとろぎ・図書館・スポーツ推進課					
基本目標	1 生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	9-4

2.事業の概要

事業内容	外部の視点から運営状況に関する評価を行い、より効率的な運営を行います。
根拠法令	博物館法第9条(運営の状況に関する評価等)
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	評価結果をもとに効率的な運営を行う。
------	--------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	評価の実施(図書館) 評価方法の検討及び評価者の選定(生涯学習センターゆとろぎ、スポーツセンター、郷土博物館)	同左(図書館) 評価の試行(スポーツセンター) 同左(生涯学習センターゆとろぎ)(郷土博物館)	同左(図書館・スポーツセンター) 評価の試行(生涯学習センターゆとろぎ、郷土博物館)	同左

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	8H	1人	4H	1人	4H	1人	4H
主事・主任職	1人	8H	1人	4H	1人	4H	1人	4H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	0	0	0
人件費(係長職)	41	20	20	20
人件費(主任・主事職)	29	14	14	14
総事業費(合計)	70	34	34	34
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	70	34	34	34
財源内訳(合計)	70	34	34	34

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

入館者に対しアンケート調査を行い、郷土博物館に対する意見・要望を確認した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	0	0	0	0	-

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
来館者から展示が分かりやすいなどの評価を受けているが、案内機器が一部故障との指摘があった。外部の視点から郷土博物館の運営状況に関する評価を行った。	来館者から展示が分かりやすいなどの評価を受けている。更に、外部から郷土博物館の運営状況に関する評価を行った。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

⇒

Check(評価)

8.評価

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	△
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性						
低	<table border="1"> <tr> <td>B:事業の進め方の改善の検討</td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td>C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> <td></td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討				B
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当									
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討										
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討										
		低								

Action(改善)

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
施策面については、「教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価」で行うこととし、管理運営面については各施設の事情を勘案して更に検討することとしている。 また、外部の視点については、当面は、利用者アンケート等による外部の意見を入れた自己評価を実施していくこととし、自己評価等の経過を踏まえて、引き続き検討していく。 教育委員会による外部評価を実施しており、二重の事務となることから、再検討が必要である。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	産業環境部			環境保全課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
11-01 多摩・島しょ広域連携活動助成事業(子ども体験塾)・スポーツ習慣定着促進事業		平成 26 年	その他	自治事務(市独自)	施行者への補助・助成	
01	羽村×八丈エコ教室	年				
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	15-1

2.事業の概要

事業内容	青少年の健全育成のための体験学習事業を、多摩・島しょ広域連携活動助成金を活用して実施します。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、スポーツへの関心が高まっていることを捉えた事業を実施します。
根拠法令	環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律
条例	羽村市環境基本条例
要綱等	羽村市環境とみどりの基本計画、羽村市地球温暖化対策地域推進計画

3.成果指標

成果目標	助成金を活用して大規模な事業を実施することにより、子どもたちの感動体験の創出や連携団体間の交流を図ることができる。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	羽村×八丈エコ教室(環境保全課)30人	羽村×八丈エコ教室(環境保全課)30人	各種事業の実施 ※事業を検討する中で事業費を算定	各種事業の実施 ※事業を検討する中で事業費を算定

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	185 H	1人	185 H	1人	185 H	1人	185 H
主事・主任職	2人	150 H	2人	150 H	2人	150 H	2人	150 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	618	618	0	0
人件費(係長職)	933	921	921	921
人件費(主任・主事職)	1,080	1,020	1,020	1,020
総事業費(合計)	2,631	2,559	1,941	1,941
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	2,631	2,559	1,941	1,941
財源内訳(合計)	2,631	2,559	1,941	1,941

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	45	円
イ 対象者		人における1人あたりのコストは、		円
ウ 成果物		の 出来高		の コストは
※ 対象者:				円

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

①安全確保対策として、これまで2か所の宿に分かれて実施していたが、1つの宿に宿泊し安全管理の向上を図り実施することができた。

②レベルアップへの取り組み

相互交流(八丈町参加者の羽村市内現地活動の実施)について、八丈町と検討したが実現には至らず、引き続き検討課題とすることを相互で確認した。また、連携組織への新たな参加自治体の呼びかけについては、既存の事業と時期が重複すること等の理由から八丈町の賛同が得られていない。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	618,000	0	618,000	617,400	99.9%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
羽村市参加団員21人 報告書を作成するにあたり、団員及び保護者アンケートを実施した。その中で、事業全体の評価は「継続」との回答が98%であった。	羽村市参加団員20人 今年度の事業全体の評価アンケートにおいても「継続」との回答が98%であった。 また、羽村・八丈のそれぞれ保護者から、相互交流(八丈町参加者の羽村市内現地活動の実施)についての希望が90%あった。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
羽村×八丈エコ教室参加者	30人	28人

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高 [効率性]	
低	低	
↓	低	

B:事業の進め方の改善の検討 A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当

C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討

D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

<p>評価(所管課長)</p> <p>相互交流や新たな参加自治体の組入れについて、引き続き検討する。また、八丈島参加団員との交流の機会を増やすことを目的に、インターネットを活用したテレビ会議などの手法導入について研究することとしたい。</p>

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	子ども家庭部		児童青少年課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
11-2	多摩・島しょ広域連携活動助成事業(子ども体験塾)・スポーツ習慣定着促進事業	平成 22 年	継続	自治事務(市独自)	直営	
	01 大島・子ども体験塾	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標	1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号 15-2

2.事業の概要

事業内容	青少年の健全育成のための体験学習事業を、多摩・島しょ広域連携活動助成金を活用して実施します。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、スポーツへの関心が高まっていることを捉えた事業を実施します。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	助成金を活用して大規模な事業を実施することにより、子どもたちの感動体験の創出や連携団体間の交流を図ることができる。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	大島・子ども体験塾(児童青少年課)70人	大島・子ども体験塾(児童青少年課)70人	各種事業の実施 ※事業を検討する中で事業費を算定	各種事業の実施 ※事業を検討する中で事業費を算定

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	60 H	1人	220 H	1人	60 H	1人	100 H
主事・主任職	1人	70 H	0人	0 H	1人	70 H	1人	120 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	175	175	0	0
人件費(係長職)	303	1,095	299	498
人件費(主任・主事職)	252	0	238	408
総事業費(合計)	730	1,270	537	906
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	730	1,270	537	906
財源内訳(合計)	730	1,270	537	906

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	23	円
イ 対象者	35	人における1人あたりのコストは、	36,286	円
ウ 成果物		の出来高		円
※ 対象者: 大島・子ども体験塾参加者		のコストは		円

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

あきる野市と共同で実施しており、事業費は多摩・島しょ広域連携活動助成金、市補助金、参加者負担金で賄い、参加者は羽村市・あきる野市併せて70名、指導員及びリーダー15名で実施した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	175,000		175,000	175,000	100.0%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
大島において、島の自然や文化を体験するとともに、異年齢集団の共同生活等を通じ、青少年の体験活動を推進した。	大島において、島の自然や文化を体験するとともに、異年齢集団の共同生活等を通じ、青少年の体験活動を推進できた。 また今回、過去の参加者がリーダーとして参加するなど地域のリーダー育成の目的が達成された。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	高 [効率性]	今後の方向性					
低	<table border="1"> <tr> <td>B:事業の進め方の改善の検討</td> <td>A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		高	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当								
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討									
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討									
		低							

Action(改善)

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
今後もあきる野市と共同開催し、大自然をフィールドとしてあきる野市や大島町の子どもや異年齢の子ども同士が共同生活する体験学習を通じて、青少年健全育成と青少年リーダーの育成を目指していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目

事業名	作成部署	生涯学習部		生涯学習センターゆとろぎ	
	開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
11-3 多摩・島しょ広域連携活動助成事業(子ども体験塾)・スポーツ習慣定着促進事業	平成 22 年	継続	自治事務(市独自)	その他	
01 子ども国際交流音楽祭	年				
02 世界のはてを見てみよう「南極・北極体験」	年				
03	年				
04	年				
05	年				
関連課					
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号 15-3

2.事業の概要

事業内容	青少年の健全育成のための体験学習事業を、多摩・島しょ広域連携活動助成金を活用して実施します。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、スポーツへの関心が高まっていることを捉えた事業を実施します。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	助成金を活用して大規模な事業を実施することにより、子どもたちの感動体験の創出や連携団体間の交流を図ることができる。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	子ども国際交流音楽祭(ゆとろぎ)885人 ロボットワールド(ゆとろぎ)6,708人	子ども国際交流音楽祭(ゆとろぎ)1200人 世界のはてを見てみよう「南極・北極体験」(ゆとろぎ)4000人	各種事業の実施 ※事業を検討する中で事業費を算定	各種事業の実施 ※事業を検討する中で事業費を算定

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	47H	1人	47H	1人	47H	1人	47H
主事・主任職	2人	189H	2人	189H	2人	189H	2人	189H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	1,200	1,250	0	0
人件費(係長職)	237	234	234	234
人件費(主任・主事職)	1,361	1,285	1,285	1,285
総事業費(合計)	2,798	2,769	1,519	1,519
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	2,798	2,769	1,519	1,519
財源内訳(合計)	2,798	2,769	1,519	1,519

③コスト計算

ア 市民 56,281 人における1人あたりのコストは、 49 円
 イ 対象者 10000 人における1人あたりのコストは、 277 円
 ウ 成果物 来場者・参加者 の 出来高 9362 における1 のコストは 296 円

※ 対象者:

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

■青梅市・福生市・羽村市連携「真夏の北極・南極展」(H28.8.16~21)参加者9,392人。内容:体験学習「南極ワークショップ」、講演会「みんな・ひとつになって～北極からの贈りもの～」、展示「リサ・ヴォート写真展」「北極・南極に棲息する動物たちのはく製展示」「南極観測隊装備品展示」、体験「-20℃極寒体験」「ワークショップ」、プラネタリウム「オーロラの調べ」、映画「ペンギンズ フロム マダガスカル」
 ■奥多摩町・檜原村・羽村市連携「子ども国際交流音楽祭」(H28.10.8、10)参加者1,088人。内容:ウィーンの音楽家達による指導及び共演、交流コンサート「交流演奏」「歓迎演奏」「ウィーンの音楽家による演奏」

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	1,250,000	0	1,250,000	1,240,059	99.2%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
日ごろ実施できないスケールの大きさと、子どもたちの感動体験の機会を設け、夢を育んだ。また、青梅市、福生市、奥多摩町、檜原村との連携により、団体間の交流を図ることができた。	日常では体感できない展示やワークショップ、世界レベルの音楽公演などを通じて、将来を担う子どもたちの知的好奇心を喚起し、夢を育むことができた。また、連携自治体間の交流を図ることができた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
子ども国際交流音楽祭参加者	1,200人	1,088人
世界のはてをみてみよう参加者	4,000人	9,392人

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	今後の方向性						
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td colspan="2">C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> </tr> <tr> <td colspan="2">D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		高 [効率性]	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当							
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討								
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討								
	低							

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
広域の市町村が連携することで、単独市では実施できない大きな規模の事業が実施でき、子どもたちに夢を育む事業が提供できるようになる。また、子どもたち、職員間において団体間における交流が図れることから、実施の意義は大きい。今後も継続実施していく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	生涯学習部			郷土博物館
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
11-4	多摩・島しょ広域連携活動助成事業(子ども体験塾)・スポーツ習慣定着促進事業	平成 22 年	期間設定5年	自治事務(市独自)	業務委託(一部)	
	01 子ども発掘体験	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	15-4

2.事業の概要

事業内容	青少年の健全育成のための体験学習事業を、多摩・島しょ広域連携活動助成金を活用して実施します。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、スポーツへの関心が高まっていることを捉えた事業を実施します。
根拠法令	
条例	
要綱等	青梅市・羽村市子ども体験塾実行委員会設置規約

3.成果指標

成果目標	助成金を活用して大規模な事業を実施することにより、子どもたちの感動体験の創出や連携団体間の交流を図ることができる。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	子ども発掘体験(郷土博物館)19人	子ども発掘体験(郷土博物館)30人	各種事業の実施 ※事業を検討する中で事業費を算定	各種事業の実施 ※事業を検討する中で事業費を算定

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	50 H	1人	50 H	1人	50 H	1人	50 H
主事・主任職	1人	80 H	1人	80 H	1人	80 H	1人	80 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	169	168	0	0
人件費(係長職)	252	249	249	249
人件費(主任・主事職)	288	272	272	272
総事業費(合計)	709	689	521	521
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	709	689	521	521
財源内訳(合計)	709	689	521	521

③コスト計算

ア 市民 56,281 人における1人あたりのコストは、 12 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 参加者 の出来高 10 人 における1人 のコストは 68,900 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

子ども発掘体験

事前学習会 7月24日(日) 参加者とその保護者に体験内容の説明と遺跡の基本的な学習を行った。

発掘作業体験 7月26日(火)～7月30日(土) 約1700年前の古墳時代の竪穴住居跡の発掘調査

発掘品整理作業体験 8月2日(火)～8月3日(水) 発掘した土器の洗浄、土器づくり、古代アクセサリ(勾玉)と拓本の制作

青梅市との共同事業であり、発掘体験という内容上少人数での実施が望ましいため、各市10人、合計20人として例年と同規模の人数で実施し、13人(羽村市からは9人)が参加した。

②投入実績

決算の内訳(単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	168,000	0	168,000	153,468	91.4%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
前年度同様に発掘・歴史に興味を持つ子どもがおり、連携団体間、異年齢の子どもたちの仲間づくりが醸成された。	前年度同様に発掘・歴史に興味を持つ子どもがおり、連携団体間、異年齢の子どもたちの仲間づくりが醸成された。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
参加者	20人	13人

Check(評価)

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】	高 [妥当性・有効性]	今後の方向性				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">B:事業の進め方の改善の検討</td> <td style="width: 50%;">A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当</td> </tr> <tr> <td>C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討</td> <td>D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討</td> </tr> </table>	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	高 [効率性]	A
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当					
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討					
低	低					

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
青少年の健全育成のための体験事業として、有意義な事業であり、連携団体との交流や異年齢同志との仲間づくりは子どもたちにとって貴重な体験である。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	企画総務部		企画政策課
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法
11-5 多摩・島しょ広域連携活動助成事業(子ども体験塾)・スポーツ習慣定着促進事業		年			
01	平和啓発施設見学会	平成 26 年	継続	自治事務(市独自)	その他
02		年			
03		年			
04		年			
05		年			
関連課					
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号 15-5

2.事業の概要

事業内容	青少年の健全育成のための体験学習事業を、多摩・島しょ広域連携活動助成金を活用して実施します。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、スポーツへの関心が高まっていることを捉えた事業を実施します。
根拠法令	
条例	
要綱等	多摩・島しょ広域連携活動助成金交付要綱(市長会補助要綱)

3.成果指標

成果目標	助成金を活用して大規模な事業を実施することにより、子どもたちの感動体験の創出や連携団体間の交流を図ることができる。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	平和啓発施設見学会(企画政策課)35人	平和啓発施設見学会(企画政策課)35人	各種事業の実施 ※事業を検討する中で事業費を算定	各種事業の実施 ※事業を検討する中で事業費を算定

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	200 H	1人	100 H	1人	200 H	1人	100 H
主事・主任職	1人	300 H	1人	300 H	1人	300 H	1人	300 H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	419	445	0	0
人件費(係長職)	1,008	498	995	498
人件費(主任・主事職)	1,080	1,020	1,020	1,020
総事業費(合計)	2,507	1,963	2,015	1,518
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	2,507	1,963	2,015	1,518
財源内訳(合計)	2,507	1,963	2,015	1,518

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	35	円
イ 対象者	25	人における1人あたりのコストは、	78,520	円
ウ 成果物		の出来高		円

※ 対象者: 平和啓発施設見学会参加中学生

Do【実行】 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

平和啓発施設見学会参加者:35人(青梅市と連携し広島への中学生を派遣)
【内訳】中学生25人(青梅市13人・羽村市12人)、リーダー5人(青梅市2人・羽村市3人(杏林大学より3人派遣))、引率者5人(職員:青梅市2人・羽村市1人、教員2人(青梅市1人・羽村市1人))
 <<活動概要>>
 広島市実施踏査(6/23、6/24)、事前リーダー研修(7/1)、事前研修(7/8、7/20、7/27)、出発式・保護者説明会(7/29)、平和啓発施設見学会(8/4~8/6)、事後研修(8/11)、報告会(8/14)、事業レポートの作成(平成29年2月)

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	445,000	0	445,000	445,000	100.0%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
平成27年度から青梅市との連携事業として、特定財源を確保しながら取り組むことができたことから、継続して実施いく。ピースメッセンジャーを通じた平和思想の普及啓発に取り組んでいく。	中学生の広島派遣事業を通じて、若い世代への平和思想の普及啓発を図るとともに、青梅市との連携事業として実施することで、自治体間連携は基より、学生同士の交流を図ることができた。また、平和啓発施設見学会においては、現地での生徒間交流を図り、充実した内容となるよう、広島女学院中学校の生徒とともに事業に参加する機会を設け、一緒に平和の大切さについて考えることができた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
平和啓発施設見学会参加者	35人	35人

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高 [効率性]	
低	低	
↓		
←	→	
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		
D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討		

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
 戦後70年以上が経過し戦争体験者が減少していく中で、平和思想の普及啓発を実施していく必要性は、極めて高いことから、事業を継続して実施していく必要がある。また、事業実施にあたっては、より効果的な子どもたちの感動体験となるよう、また、連携団体間の交流を図られるよう、内容の充実を図っていく。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目

事業名	作成部署	生涯学習部			スポーツ推進課	
		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
11-6 多摩・島しょスポーツ習慣定着促進事業		平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○
01 小・中学生「走り方教室」(初心者編)		平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○
02 小・中学生「走り方教室」(競技力向上編)		平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○
03 小・中学生「フィジカルトレーニング(体幹)教室」(競技力向上編)		平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○
04 障害者スポーツのススメ		平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○
05 歩くことからはじめよう		平成 28 年	継続	自治事務(市独自)	直営	○
関連課 健康課・障害福祉課・高齢福祉介護課						
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	15-6

2.事業の概要

事業内容	青少年の健全育成のための体験学習事業を、多摩・島しょ広域連携活動助成金を活用して実施します。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、スポーツへの関心が高まっていることを捉えた事業を実施します。
根拠法令	
条例	
要綱等	多摩・島しょスポーツ習慣定着促進事業助成金交付要綱

3.成果指標

成果目標	市民のスポーツ実施率を50%に向上させる。
------	-----------------------

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	小・中学生バドミントン技術力向上事業(スポーツ推進課)100人	小・中学生「走り方教室」(初心者編)50人 小・中学生「走り方教室」(競技力向上編)50人 小・中学生「フィジカルトレーニング(体幹)教室」(競技力向上編)30人 障害者スポーツのススメ! 60人 歩くことからはじめよう100人	各種事業の実施 ※事業を検討する中で事業費を算定	各種事業の実施 ※事業を検討する中で事業費を算定

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	20H	1人	190H	1人	100H	1人	100H
主事・主任職	0人	0H	2人	120H	2人	100H	1人	100H

②総事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	1,425	2,000	0	0
人件費(係長職)	101	946	498	498
人件費(主任・主事職)	0	816	680	340
総事業費(合計)	1,526	3,762	1,178	838
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	1,425	2,000	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	101	1,762	1,178	838
財源内訳(合計)	1,526	3,762	1,178	838

③コスト計算

ア 市民	56,281	人における1人あたりのコストは、	67	円			
イ 対象者	390	人における1人あたりのコストは、	9,646	円			
ウ 成果物	参加者	の 出来高	390	における1	のコストは	9,646	円

※ 対象者: 事業の参加者

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

走り方教室では、当初、打合せをしていた事業者と日程調整がつかず、急遽事業者を変えるなど、計画に遅延が生じたものの、2月までにすべての事業を完了することができ、スポーツ習慣の定着に向けて参加者の意識を高めることができた。なお、事業費については、大学との連携やスポーツ推進委員による実施など工夫をしたことで、当初見込んでいた委託費に余剰が生じたもの。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	2,000,000	0	2,000,000	1,117,286	55.9%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
小中学生バドミントン技術力向上事業を実施し、60人の小中学生が一流チームの指導を受け、部活動等を行ううえで、大きな励みに繋げていくことができた。	東京オリンピック・パラリンピック開催に向け、スポーツへの関心が高まっているなかで、運動初心者と競技力向上に向けた事業を提供し、スポーツ習慣の定着化に向けて意識の向上に努めることができた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check【評価】

8.評価

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性(必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性(手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性(成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		今後の方向性
高 [妥当性・有効性]		A
↑	高 [効率性]	
低	←	
↓	→	
低	高	
B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	
←	→	
C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	
↓	↑	
低	高	

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を背景に、スポーツへの関心が高まっており、そのようななかで、様々な年齢層の人たちを対象に、スポーツ初心者から経験者までをターゲットに上記の5事業を実施した。 初心者には、継続してスポーツを実施していく大切さを伝え、経験者には指導者の技術を学ぶことができるなど、スポーツ実施率の向上に大きな役割を果たした。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	生涯学習部			図書館
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
12	ヤングアダルト(YA)コーナーの環境整備と充実	不明	年 継続	自治事務(市独自)	直営	
	01		年			
	02		年			
	03		年			
	04		年			
	05		年			
関連課						
基本目標	1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号 16

2.事業の概要

事業内容	若者世代利用者の環境整備とコーナーの充実を図り、読書離れが進む世代の利用促進を図ります。
根拠法令	
条例	
要綱等	

3.成果指標

成果目標	YA世代利用者の環境整備とコーナーの充実を図り、読書離れが進む世代の利用者の増加を目指します。
------	---

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等	YAコーナーの充実	同左	同左	同左
	YAボランティア体験の実施 6人	同左 10人	同左 10人	同左 10人
	YAボランティアの募集 新規2人累計2人	同左 新規2人累計4人	同左 新規2人累計6人	同左 新規2人累計8人

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	1人	100H	1人	100H	1人	100H	1人	100H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	553	760	760	760
人件費(係長職)	0	0	0	0
人件費(主任・主事職)	360	340	340	340
総事業費(合計)	913	1,100	1,100	1,100
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	913	1,100	1,100	1,100
財源内訳(合計)	913	1,100	1,100	1,100

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

YAボランティア体験を例年通り実施し、4名の参加があった。新規YAボランティアは3名の登録があった。

体験参加者やYAボランティアが作成したPOP(本の紹介カード)をおすすめ本の紹介に活用し、若い世代への読書活動への意識啓発を図ることができた。また、謎解きイベントも実施し、公表につき平成29年5月まで期間を延長した。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	760,000	0	760,000	625,657	82.3%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
蔵書数は12,118冊であり、コーナーに充実を図ることができた。	蔵書数は12,511冊であり、体験参加者やYAボランティアが作成したPOPを活かした展示や好評を得た謎解きイベントなどでコーナーの充実と若い世代への読書活動への啓発を図ることができた。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値

Check(評価)

◎・・・適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○・・・適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △・・・課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	今後の方向性
低 ←	B:事業の進め方の改善の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	A
	C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討		
	D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	高 [効率性] →	
		低	

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長) 中高生段階の読書離れを抑えるためにも、青年層に対する読書の関心を高める必要がある。今後も興味を引き付ける展示やPRを行い、この年齢層の図書館利用及び読書環境の向上に努めたい。

平成28年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	生涯学習部		郷土博物館	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	進行管理
13	阿蘇神社避雷針交換工事	平成 28 年	今年度限り	自治事務(市独自)	業務委託(全部)	○
	01	年				
	02	年				
	03	年				
	04	年				
	05	年				
関連課						
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	5	生涯学習	事業番号	a

2.事業の概要

事業内容	宗教法人阿蘇神社代表役員宮川武文氏から阿蘇神社本殿避雷針1基の交換工事について申し出があった。羽村市では、阿蘇神社からの東京都文化財保存事業費補助金交付申請ならびに実績報告の進達事務、羽村市文化財保存事業費補助金交付事務を行う。
根拠法令	東京都文化財保存事業費補助金交付要綱
条例	
要綱等	羽村市文化財保存事業費補助金交付要綱

3.成果指標

成果目標	市内にある東京都指定文化財「阿蘇神社」について、文化財保護法及び東京都文化財保護条例、羽村市文化財保護条例の規定による文化財の保存・活用を行う。
------	--

4.活動指標

Plan【計画】	平成27年度(現況)	3か年計画		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業内容 事業量等		避雷針交換-1基		

5.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①人件費 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成27年度(現況)		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	0人	0H	1人	30H	0人	0H	0人	0H
主事・主任職	0人	0H	0人	0H	0人	0H	0人	0H

②総事業費

事業費の内訳 (単位:千円)	平成27年度(現況)	平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業費	0	1,350	0	0
人件費(係長職)	0	149	0	0
人件費(主任・主事職)	0	0	0	0
総事業費(合計)	0	1,499	0	0
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	0	0	0	0
受益者負担額	0	0	0	0
その他特定財源	0	0	0	0
一般会計繰入金	0	0	0	0
起債	0	0	0	0
一般財源(人件費含む)	0	1,499	0	0
財源内訳(合計)	0	1,499	0	0

③コスト計算

ア 市民 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果物 の出来高 のコストは 円
 ※ 対象者:

Do(実行) 【進行管理】

6.実施結果(本年度における、4.活動指標と、5.投入指標の結果)

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①活動実績(Plan【計画】)及び事中評価における改善について本年度どのような活動を実施したか
 ※計画を見直し完了、遅延、中断となった場合は、理由、内容などを記入すること。

阿蘇神社本殿に隣接する樹木に取り付けていた避雷針に代えて、専用のパンザマスト(支柱)を新設して取り付けた。

②投入実績

決算の内訳 (単位:円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	1,350,000	▲ 540,000	810,000	810,000	100.0%

7.成果結果

①活動、投入実績から生じた成果(物)

前年度(今までの状況)	今年度(どういう状態になったか)
昭和61年11月に文化財を落雷から防ぐために避雷針を杉の立木に設置したが、約29年が経過し、固定バンドが老朽化し導線が壊れていることから、新たにパンザマストに避雷針を設置することで、本殿屋根への落雷の危険性を回避できる。	防災工事(避雷設備改修工事)において、新規避雷針を設置することで、本殿屋根に落雷の危険性がなくなったと考えられる。総体的として、今回の防災工事の実施により、東京都指定有形文化財として保全され、景観が保たれたと考えられる。

②4.活動指標のPlan【計画】において、目標値を数値化している場合

対象者(物)	本年度:目標値	本年度:実績値
避雷針交換	1基	1基

Check(評価)

◎…適切であるが、今後、より効果的に改善するもの

○…適切なもの

8.評価

①事業評価(改善等、課題を発見する視点) △…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	評価のポイント	項目の着眼点	課長評価
妥当性 (必要性)	・上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業か ・今の社会情勢に見合う事業内容となっているか ・利用者・対象者のニーズ(需要)はあるか	施策体系に結びつくか、事業の必要性はあるか	○
効率性 (手法)	・活動手法を見直し、人件費・事業費の削減余地はないか	成果を落とさず、最少の経費・労力で事務が執行されているか	○
有効性 (成果)	・事業の目標が達成されているか	成果又は効果が表れているか	○

②事業評価(今後の方向性についての視点)

【今後の方向性】		高 [妥当性・有効性]	今後の方向性
低 ←	B:事業の進め方の改善の検討 C:事業規模・内容又は実施主体の見直しの検討 D:事業の抜本的見直し、休止・廃止の検討	A:計画どおりに事業を進めること、又は、より効果的に改善して進めることが適当	
			低

Action【改善】

評価から導かれる今後の課題と方向性

評価(所管課長)
 東京都文化財保存事業費補助金が補助対象経費の50%から事業規模指数による加算率がさらに20%加算され70%の交付となった。よって、羽村市文化財保存事業費補助金についても総事業費から東京都補助金を引いた額の2分の1が当初予算より減額して交付することができた。また、阿蘇神社本殿屋根への落雷や参拝者への危険性を回避することができた。